SAGAWA News Letter

Contents

- ・モーダルシフトや新たな輸送手段への挑戦
- 新幹線を利用した貨客混載事業

佐川急便のモーダルシフトや新たな輸送手段への挑戦

多種多様なモーダルシフトの取り組み

佐川急便では、トラックによる輸送手段を船舶や鉄道などの環境負荷の少ない手段に転換するモーダルシフトに早くから着目し推進しています。モーダルシフトは船舶や鉄道で1度に大量の荷物を輸送することで輸送効率が高まり、CO2排出量抑制につながるほか、道路混雑緩和や交通事故防止、長距離運転抑止による労働環境の改善などにも有効です。一般的な船舶や鉄道だけでなく、多種多様なモーダルシフトに取り組んでいます。

事例① 世界初の電車型特急コンテナ列車「スーパーレールカーゴ」

当社は2004年より、日本貨物鉄道株式会社と共同開発した世界初の電車型特急コンテナ列車「スーパーレールカーゴ」を運行しています。東京〜大阪間で上下各1便運行しており、10トントラック56台分に相当する貨物量を積載することが出来ます。これは東京〜大阪間の荷量の約10%に相当します。CO2排出量低減など環境負荷低減やトラックドライバーの労働環境の改善などに大きな効果を発揮しています。



最高速度: 時速130km

型式: M250系

車両編成:16両編成

(モーター付車両4両、付随車両12両)

運行区間:東京貨物ターミナル駅(東京)

⇔安治川口駅(大阪)を1日1運行

所要時間:6時間12分

事例② サービスセンターの展開

都市部を中心にトラックなどを使用せずに台車や自転車などで集配を行う「サービスセンター」を全国に約340箇所設置しています。1箇所当たり3~5台の車両使用を抑制でき、全センター合計では車両約1,500台分のCO2や大気汚染物質の排出を抑制しています。 (2021年9月時点)

配送車両の駐車対策にもつながります。また、車両を使用しないことから、免許を所持していない方でも従事することが出来るため、就業機会拡大にも貢献します。

台車や自転車などで集配を行う「サービスセンター」の地域展開による環境対策と地域コミュニケーション強化など、環境、経済、社会が一体となった持続可能な取り組みを進めています。

サービスセンターがない場合 集配先A 営 業 集配先B 所 集配先C サービスセンターを設置した場合 集配先A 営 業 スセン 集配先B 所 集配先C SAGAWA SAGAWA)

新たな輸送手段"業務用電動アシスト自転車「TRIKE CARGO」"

豊田TRIKE株式会社と共同開発を進めてきた業務用電動アシスト自転車「TRIKE CARGO(トライクカーゴ)」の本格導入を2020年8月より開始し、現在では全国66営業所、計187台を導入しました。積載可能重量150kgとなっています。走行時にCO2を排出しない環境に配慮した輸送手段のひとつです。(2021年9月時点)



全長: 2,400mm

全幅: 925mm

全高: 1,050mm

車両重量:69.5Kg(リアカー接続時)

最大積載重量: 150Kg

タイヤサイズ:前後16インチ

(前2輪、後2輪)

今後も佐川急便は配達地域や荷物の特性に応じた輸送手段の多様化により、政府が掲げる2050年カーボンニュートラルの実現に貢献するべく、CO2削減を推進していきます。

佐川急便の新幹線を利用した貨客混載事業

全国で展開している「貨客混載事業」の取り組み

近年、地方を中心に「貨客混載」の事例が増えています。貨客混載とは、貨物と旅客の輸送、運行を一緒に行う形態のことを指します。貨物と人の相乗りによってスペースを活用できれば輸配送の効率化が期待できるほか、人口減少に直面している地域の交通インフラ維持、そしてトラック輸送によるCO2排出量低減といった環境負荷低減などのメリットが見込まれます。

佐川急便では、地域の鉄道、バス、タクシー事業者と連携し、限られたリソースの中で新たな輸送ネットワークを構築することで、地域の交通インフラの維持から地域住民の雇用確保や生活維持にもつなげることが可能となり、物流事業者として環境負荷低減だけではなく、従業員の働き方改革や業務の効率化にも効果が出ています。

これまでの取り組み事例

- ・東京空港交通 都心〜成田空港間(リムジンバス) 2017年3月〜
- ・北越急行 六日町駅~うらがわら駅間 2017年4月~ (実証実験は2016年11月~2017年3月)
- ・路線バス会社2社 岐阜県高山市〜長野県松本市間 2017年9月(実証実験)
- ・路線バス会社3社 愛媛県内「バスパ」手ぶら観光×貨客混載 2017年9月~
- ・旭川中央ハイヤー 北海道旭川市米飯地区、東旭川駅周辺 2017年11月~
- ・路線バス会社2社 秋田県男鹿市船川港船川〜男鹿市北浦湯本間 本荘市〜にかほ市間 2018年2月〜3月(実証実験)
- ・エムケイ、JAL ABC 関西空港~京都市内 手ぶら観光×貨客混載 2018年6月~
- ・山城ヤサカ交通 京都府相楽郡笠置町 2018年10月~
- ・HEYタクシー 北海道上川郡当麻町 2018年11月~
- ・天塩ハイヤー 北海道天塩郡幌延町 2018年12月~
- ・JR北海道 宗谷線 稚内駅〜幌延駅間 2019年4月〜(実証実験は2018年11月〜2019年3月)
- ・松浦鉄道 松浦駅~潜竜ヶ滝駅間 2019年11月~
- ・村営バス 宮崎県西米良村(他社と共同)2020年3月~
- ・町営バス 鳥取県大山町 2020年11月~(実証実験)
- ・JR九州 九州新幹線 博多駅~鹿児島中央間 2021年5月~(実証実験は2021年2月)
- ・JR北海道 北海道新幹線 新函館北斗駅~新青森駅間 2021年3月~
- ・JR西日本・九州 山陽・九州新幹線 鹿児島中央駅〜新大阪駅間 2021年10月(実証実験)





新幹線を利用した貨客混載事業

貨客混載事業の中でも新幹線を利用した貨客混載事業は、即時性と速達性を活かした新たな輸送モードの構築や高付加価値サービスの開発に寄与いたします。また、当社の強みである全国に広がるネットワークの幹線輸送における従業員の業務負荷低減や輸送モードの転換に伴うCO2排出量低減および安定した輸送品質の提供を可能とします。

事例① -北海道新幹線を使った貨客混載輸送-

◆事業概要

(1) 事業区間 : 北海道新幹線 新函館北斗駅~新青森駅間 (148.8km)

(2) 輸送列車: 一日あたり上り列車1本(平日のみ)

(3) 事業開始日: 2021年3月24日から



◆輸送フロー

佐川急便函館営業所の担当者が荷物を入れた専用ボックスを新函館北斗駅に持ち込み、列車内に積み込みます。新青森駅までJR北海道新幹線で輸送。佐川急便青森営業所の担当者が専用ボックスを列車内から取り卸し、青森営業所まで輸送。

◆効果

今回の取り組みでは、幹線輸送における従業員の労務負担の軽減や輸送モードの転換に伴うCO₂排出量低減および安定した輸送品質の提供が可能となります。

通常の荷物の流れ

一 幹線輸送とは -

佐川急便では、集荷営業所で集荷した荷物を地域方面別に仕分けを行います。そして、各地域毎の中継センターと呼ばれる荷物の集積所に向けて荷物を輸送します。それぞれの方面から中継センターに集められた荷物は配達営業所毎に再び仕分けを行い発送します。到着後、配達エリア毎にトラックに積まれ、セールスドライバー®の手によって荷物がお客さまの元へ届けられます。

幹線輸送とは、一箇所に大量の荷物を集め、それを大型のトラックなどを使用して別の拠点まで一気に輸送することを指します。当社では集荷営業所から中継センター、中継センターから配達営業所までの輸送を幹線輸送と呼び、このように荷物を一度集約することで時間も手間も省け、コストを削減することが可能となります。



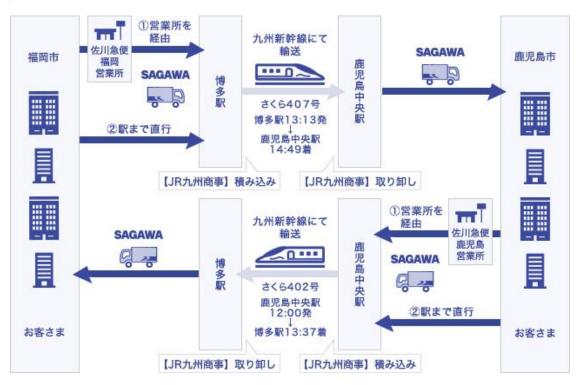
-九州新幹線を使った貨客混載輸送-事例(2)

◆事業概要

(1) 事業区間:九州新幹線 博多駅~鹿児島中央駅間(256.8km)

(2) 輸送列車:一日あたり上下1列車ずつ(毎日)

(3) 事業開始日: 2021年5月18日から



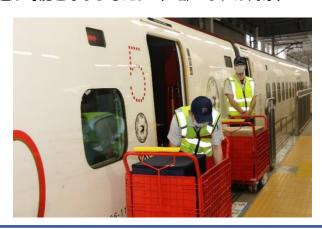
◆輸送フロー

指定場所より佐川急便の担当者が宅配便荷物を集荷、発駅にてJR九州商事が九州新幹線(博多駅・鹿 児島中央駅上下間)の業務用室へ宅配便荷物を積載し輸送。着駅にて取り卸し、佐川急便の担当者が 指定場所まで配達します。

◆効果

即時性と速達性を活かした新たな輸送モードの構築や高付加価値サービスの開発に寄与いたします。 今回の取り組みで、福岡市と鹿児島市間の即日配達が可能となりました。(一部エリアが対象)





掲載内容に関するお問合せは下記までご連絡ください 佐川急便株式会社 広報課

Tel: 03-3699-3614 Mail:pr@sagawa-exp.co.jp

・佐川急便の新型コロナウィルス感染予防対策 ・ホームページのコーナー紹介

前号のコンテンツ(2020年5月1日号)

「今月の佐川男子×佐川女子」

・佐川急便のSDGs

バックナンバーは下記のURLからご覧になれます https://www.sagawa-exp.co.jp/company/letter.html